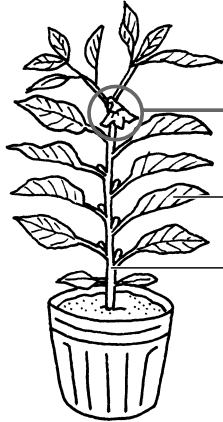


1 苗の選び方

本葉6~10枚程度の苗で、節間の短い苗を選びます。小苗の場合は、1番花が咲くまでビニールポットで管理します。



花芽がついている場合は、すぐ植え付ける。

葉色が濃く、厚みがある。

茎が太めで、しっかりしている。

2 畑の準備・植え付け

土作り 植え付けの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまき深く耕します。



元肥・うね立て・マルチ張り

植え付けの1週間前までに元肥をまき、うね立てを行いマルチを張ります。



土作り 苦土石灰: 1㎡あたり100g
JAファーム有機堆肥: 1㎡あたり2~3kg

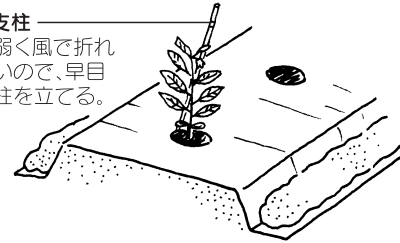
元肥 JAファームやさいの元肥: 1㎡あたり200g(ひと握り約40~50g)

植え付け

植え付けの前日に、苗にたっぷり水をやっておくと、植え付けの時の根鉢の崩れが防げます。5月上~中旬、地温が上がってから植え付けます。植え付け時、深植えをしないよう注意し、たっぷりとかん水をしましょう。

仮り支柱

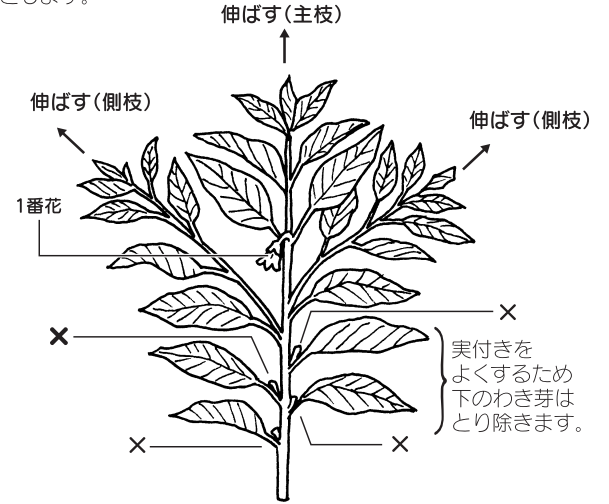
枝が弱く風で折れやすいので、早目に支柱を立てる。



3 整枝(仕立て方)

実付きを良くするための整枝

主枝に1番花がついたあと、その下から出る勢いの良いわき芽2本を残し、それ以下のわき芽は摘みとって、主枝とわき芽(側枝)2本の、3本仕立てとします。

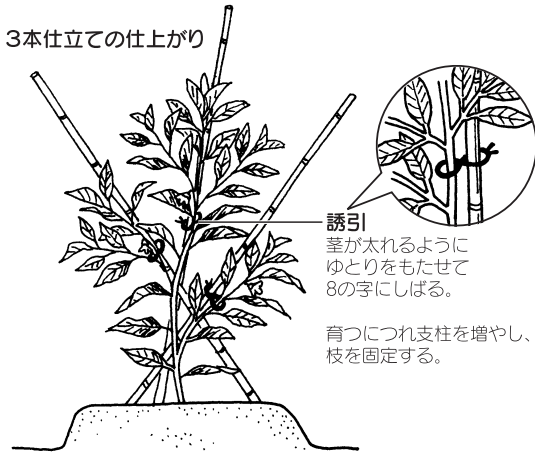


実付きをよくするため下のわき芽はとり除きます。

4 誘引

ピーマンは枝が細く、伸びてくると横に広がるので、枝を立てるように誘引します。混み合う枝葉は間引き、株全体の日当たりを良くしましょう。

3本仕立ての仕上がり



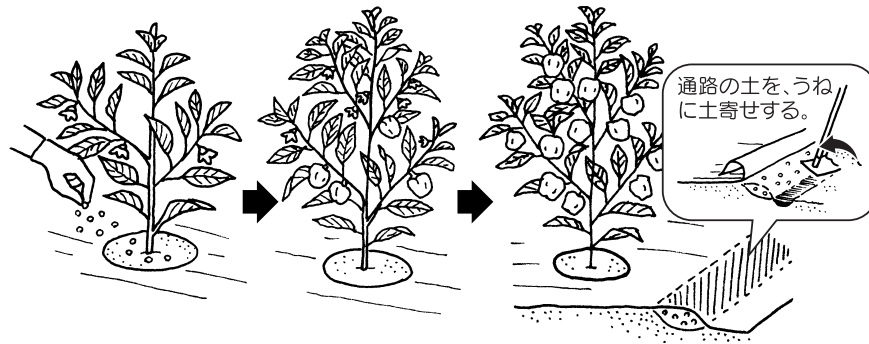
誘引 茎が太れるようにゆとりをもたせて8の字にしぼる。

育つにつれ支柱を増やし、枝を固定する。

あまり乾燥が続くようであれば、肥料がよく効くようにかん水を行う。

5 追肥・土寄せ

ピーマンは、生育期間が長いので肥料切れに気をつけます。株が大きくなるにつれ、株元より離れた位置にまきましょう。



●第1回目追肥 (花が盛んに咲き初めた頃) 「JAファームやさいの追肥」を軽くひと握り程度、(約40~50g)株元にまく。

●第2回目追肥 (収穫初めの頃) 1回目の追肥より、株元から離れた位置にまく。

●第3回目追肥 (2回目の追肥から半月おさぐらいを目安) マルチをめくり上げて肥料をまき、くわで通路の土をうねに寄せ上げる。

6 収穫

開花後15~20日で、収穫できます。



ピーマンの枝は折れやすいので、ハサミで切ると良い。

1番果(最初にできる実)は大きくなる前に、早目に収穫します。朝どりした方が水分が多くおいしいものが収穫できます。

科名	ナス科
原産地	南アメリカ
連作障害	あり(3~4年)

制作 JAファーム 専門部会 (無断転載禁止)